

一般口演

133 緑内障に対する鍼治療

— 眼圧コントロールに及ぼす影響について —

Acupuncture Therapy for Glaucoma

— Influences of Acupuncture on the Control of Intraocular Pressure —

明治鍼灸柔道整復専門学校
京都府立医科大学眼科学教室○ 西田章通 中村辰三
小玉裕司

〔緒言〕 緑内障は、眼圧の上昇とこれに起因する視機能障害を特徴とする疾患で、適切な治療による失明の防止は眼科臨床上の大きな課題とされている。治療としては眼圧のコントロールが主体となり、点眼や内服などの薬物療法が行われ、コントロール不可または不良の場合にはレーザー療法、手術療法が施行されるが、施行後においてもコントロール不良となるものも少なくない。今回、手術療法後の薬物療法において眼圧コントロール不良の症例に鍼治療を併用したところ、良好な結果が得られたので報告する。

〔方法〕 対象は、京都府立医科大学眼科外来において、手術療法後の薬物療法による眼圧のコントロールが不良で、昭和 61 年 7 月から昭和 62 年 2 月までの間に鍼治療を併用した緑内障 3 例 5 眼である。性別は男性 2 例 3 眼、女性 1 例 2 眼、年齢は 21 歳～47 歳、平均 34.7±13.0 歳であった。病型別の内訳は原発性開放隅角緑内障 4 眼、続発性緑内障 1 眼であった。

鍼治療は、1 寸 6 分 1 番ディスポーザブル鍼(50 ミリ 16 号鍼)を使用し、太陽穴(左右)と上眼窩内(左右)に 15 分間の置鍼を行った。治療間隔は原則として 1 週間に 1 回とし、治療回数は平均 16±4.6 回であった。眼圧測定は Goldmann 圧平眼圧計(HAAG-STREIT)を使用し、鍼治療直前、治療直後、治療後 30 分の計 3 回測定し、鍼治療前後において、また薬物療法のみ期間と鍼治療併用期間とにおいての眼圧の変化を比較検討した。

〔結果〕 鍼治療前後の眼圧の変化については、鍼治療直後に一過性に上昇し、治療後 30 分に降下する有意の傾向を示した。また鍼治療併用期間での眼圧は、薬物療法のみ期間と比較して有意の低い値を示し、薬物療法において眼圧コントロール不良の緑内障に対して鍼治療を併用することにより、眼圧コントロールが良好となるのではないかと示唆された。

〒654 大阪府吹田市寿町 1-20-19 Tel 06-381-5337

MEMO

(第 38 回全日本鍼灸学会学術大会 1988 年 6 月 5 日)

キーワード 緑内障 針療法 併用療法 眼圧 計測